

ハウスモモの平棚仕立てにおける整枝法

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部

研究のねらい

熊本県では昭和63年からハウスモモの平棚仕立て法を普及に移し、現在では4haに達している。整枝法には、H字形整枝、改良H字形整枝(図1)並びに一文字形整枝があるが、これらを比較したデータがない。そこで、これらの整枝法のうち、どの整枝法が平棚仕立てに適するかを明らかにする。

研究の成果

1. “ゆうぞら”を供試して、H字形整枝の植え付け2年目における主枝の選定期間を検討した結果、3、4年生時では、春の選定が着果数、収量、平均果重とも優れた。また、秋の選定は樹冠拡大が遅れ、棚下の側枝に着果した果実の比率が高かった(表1)。
2. “ゆうぞら”を供試して、H字形整枝と改良H字形整枝を3、4年生時で比較した結果、改良H字形整枝が着果数、収量、平均果重とも優れた(表2)。しかし、春に主枝選定したH字形整枝は、4年生時になると改良H字形整枝より、平均果重は小さかったが、着果数および収量は多かった(表1、2)。
3. 一文字形整枝の着果数は、4年生時になると他の整枝法より少なかった(表2、3)。また、一文字形整枝では、樹冠内部の側枝が強くなりやすく、主枝と側枝のバランスが他の整枝法より取りにくかった。一文字形整枝をしている現地の園でも、樹齢が進ほどそのような弊害が強くなってきている樹が多い。
4. 以上のようなことから、ハウスモモの平棚仕立て栽培では、改良H字形整枝が初期の収量・品質に優れ、仕立て及び枝梢管理が容易である。ただし、H字形整枝も植え付け2年目の春までに主枝を選定できれば、それに近い成果が得られる。
5. 改良H字形整枝では、主枝の先端が開きやすくなるので、主枝が棚にのった時点で主枝同志が約2m間隔で平行になるように支柱を添える。いずれの整枝法でも、樹冠拡大期の主枝先端角度は棚に対して30°以上上げておくが、太くならないうちに棚付けをする。永久樹は4m間隔とし、ハウスの谷部に植え付ける。

表1 H字形整枝の主枝選定期間と収量及び平均果重(“ゆうぞら”)

区	着果部位	3 年 生			4 年 生		
		果 数 (個/樹)	収 量 (kg/樹)	平均果重 (g)	果 数 (個/樹)	収 量 (kg/樹)	平均果重 (g)
植付け 2年目 の春	棚上	62	10.6	173	244	47.5	196
	棚下	70	10.0	144	27	4.6	175
	合計	132	20.6	158	271	52.1	194
植付け 2年目 の秋	棚上	23	3.5	141	100	19.5	199
	棚下	64	8.1	128	77	13.7	177
	合計	87	11.6	135	177	33.2	192

表2 H字形と改良H字形整枝の収量及び平均果重(“ゆうぞら”)

区	着果部位	3 年 生			4 年 生		
		果 数 (個/樹)	収 量 (kg/樹)	平均果重 (g)	果 数 (個/樹)	収 量 (kg/樹)	平均果重 (g)
H字形	棚上	42	7.0	157	172	33.5	197
	棚下	67	9.0	136	52	9.2	176
	合計	109	16.0	146	224	42.7	193
改良 H字形	棚上	95	15.2	160	231	46.2	200
	棚下	65	8.7	134	11	1.9	181
	合計	160	23.9	149	242	48.1	200

表3 一文字形整枝の収量及び平均果重(“瀬戸内白桃”)

着果部位	3 年 生			4 年 生		
	果 数 (個/樹)	収 量 (kg/樹)	平均果重 (g)	果 数 (個/樹)	収 量 (kg/樹)	平均果重 (g)
棚上	108	23.7	217	191	46.3	245
棚下	43	7.1	165	4	0.8	213
合計	151	30.8	200	195	47.1	242

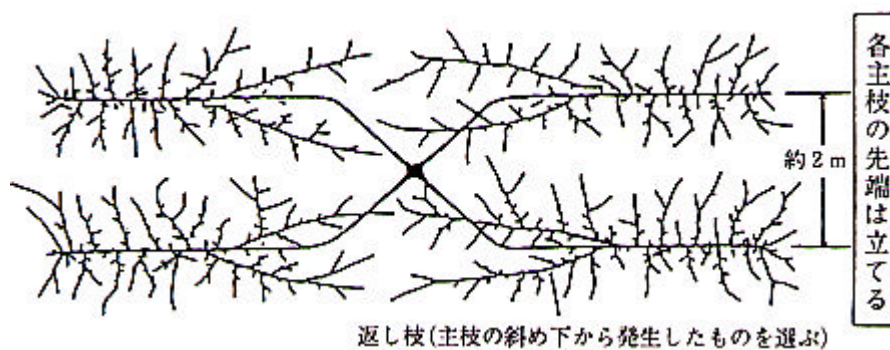


図1 平棚仕立て改良H字形整枝の平面図(成木)